



TITLE:

雑報

AUTHOR(S):

CITATION:

雑報. 地球 1932, 18(5): 391-398

ISSUE DATE:

1932-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184097>

RIGHT:

ものと考へられる。豊平川篠舞附近の最上部段丘を除き第二第三、第四等の段丘も之に入るものであらう。火山活動の爲めに多少の堆積はあつたが寧ろ火山は剝削のため著しく低下縮小された。風斜路、赤井川、洞爺等のカルデラ湖は舊沖積世よりも古い時代に形成された様である。

新著紹介

○世界經濟地誌、北米篇

定價二圓七十錢

西龜正夫著 共立社發行

達筆な著者の輕快な文章で北米の自然と經濟地理をのべたものである、菊版二八六頁、附圖百一圖いづれも明瞭に出來てゐる、參考書としての良著であると信じる、卷末に註として、いろ／＼の學術語の解説があるのは、結構な試であると信じる、索引のないのが物足りない。(藤川)

○最新地理術語解説

定價十五錢

耕崎正夫著 東京文林堂發行

本書は著者が作つた日本地誌(未刊)の附録にした術語解説のみを知友の要望により一小冊子にしたものである。四六判二九頁の片々たるものではあるが、それでも日常の地理書や雜誌に出てくる大凡の地理の學術語に關しては、簡單ではあるが要領よく解説が出來てゐる。地學辭彙といふべきものが出ない間は、かうした小冊子と雖も猶讀者を失はぬであらう。(藤川)

○郷土教育運動

十錢

小川内通敏著 刀江書院發行 定價八

菊版二八〇頁の冊子である、最初の方は郷土教育の必要といふこと、ルブレー、ゲッデス理論の教育化といふことが外國にあるといふことを教へ、つぎに郊外地研究の地理學的根據を論じ、日本の各地に於ける郷土研究の實際をのべてある我等はこの書によつて目下いかに郷土地理の研究が動いてゐるかを學ぶことが出來ると思ふ。(藤川)

雜 報

○米國に於ける桐油栽培の成績

桐油には防水性と乾燥性があるので支那人は數千年以來桐油を用ひた、彼等は有ゆる木石細工に用ひ、デヤンク船に防水劑として用ひ、家具にぬり、帛布、紙類に使用し、其糊性を利用して板の表面の填充劑とし甲板の填隙に用ひた、燈火用にはならぬが石鹼藥品となり、コンクリートの用にさへ供された、それが一八六九年に初て米國に輸入されてから、防水劑ペイント及ニス製造の必要品となり電氣の絶緣具、雨具、風呂場のカートン自動車のアレーキバンド等から各種の日用品に用ひられ本品に代るべき有効品は他に見當らないので、この桐油を支那から輸入する量は年々に増加し、毎年一億ポンドの多量を渡口

上海、香港等から輸入して化學工業輸入品の第四位を占めるに至り、之を消費する大製造會社は其數八百五十に及び、一電氣會社の如きは年額一百五十萬ポンドに達する。

しかし桐油の供給は愈々不足する傾向に見て一九〇五年漢口に在勤中の米國總領事が農務省にこの支那桐の種子を試送したので、愈こゝに植桐といふことが流行しフロリダ、アラバマ、デヨーデア、ミシシッピ、ルイジアナ、テキサス等南部諸州にて之を栽培するもの八千英反に達し、フロリダ州ではその工場が出来た、支那では穀果の成熟せざる以前に木より振り落し之を集めて醗酵させて脱殻するので其品質がわるい、且その製油法も亦原始的で、品質區々にして雜物が入る、そこで米國では今回壓搾機の製作に成功し、フロリダのゲーシスヴィルの工場に備へた、この器械による數名の勞働者で支那の七八百名の苦力と同様の能率が出る、脱殻機にかけた後は人手にふれず殘滓は五%までしか油分を残さぬ程によくしぼれる、品質も一定して支那産に勝るので、二千五百英反乃至三千英反よりの收穫を單位として小規模の工場であれば間違ひなしといふことである。日本でも臺灣や内地で一つこの工業を起すことを考へねばなるまい。

○タンガニイカと日本

タンガニイカの一九三一年の貿易總額は四百三十萬六千磅に達した、其内輸出は二百五十萬磅輸入百八十萬磅であるが、輸出の重なるものは、サイザルで七十萬磅に上り之につぐものは珈琲の二十五萬磅である、

棉花の産出も多く十二萬磅を輸出した、近來米作をはじめ印皮米を驅逐せんとしてゐる、落花生、コブラ、穀類等農作物が多い、つぎに其鐵産には黄金、マイカ、金剛石、錫の類があり最近この方面が注目せられ黄金は六萬磅を輸出するに至つた。

次に輸入方面を見ると其主要供給國は英國、インド、日本、ケンヤ及ウガンダ、北米合衆國、ドイツ等で、英國は總輸入の三六・四%をしめて主位に立ち印度は一〇・七%であるが我日本も一九三一年度には一〇・七%をしめて印度と伯仲した印度から米、小麥、食料、茶、木材、瓦、アルミニウム器綿布、ジニート袋、靴、洋傘、綿製品を輸入し、日本からは綿布、絹布、セメント、莫大小製品、綿毛布の類で主として織物である、從來は英國の輸入は四一・一%にも達したのであるが、それが三六・四%に減じたのは、實に日本の進出によるもので一九三〇年には六・七%の輸入額であつたものが一〇・七%に増加したのである。

綿布の輸入は約五十萬磅をしめすのであるが、この内日本は未晒木綿、晒木綿、無地染綿布、糸染綿布等に於て斷然頭角を現はして、他國をリードしてゐる、即日本の輸入額は約二十萬磅で總額の三割七分を占めた、其他下着類、靴下等も日本品の賣行はよい、雜貨では洋傘の九割までは日本品であり帽子、絹製品、セメント等に於ても逐年増加の傾向にある南阿の山の中だと考へてゐた所にかやうな顧客が出来たこと

を報告しておきたい。

○ニュー・ウエスト・ミンスター港

英領カナダ、バンクーバー港の隣にある貿易港で、バンクーバーより二十六

年前即一八五九年に創設せられた當時、カナダ唯一の商港であつて、フレザー河下流に位してゐるために、今も晩香坡の繁榮と相俟つて重要な位置をしめてゐる、其輸出品は重に木材、鉛、錫であつて一九三一年度の輸出品總額一千六百萬弗に上り、前年度よりも三割方増加してゐる、この中木材の輸出二十五萬噸。錫及鉛は約十五萬噸で、英本國へ十萬噸、日本へ三萬噸其他二萬噸に達する、さうして木材の約半數は東洋に仕向けられると同時に米國大西洋岸へ廻送されてゐる従つて入港の船舶數は英、米、日の順序で、昨年中に日本の船は約三十六隻が入つたと稱せられる。

○英國の鐵鋼業

英國は其鐵工業をはじめた歴史が古いだけに、其生産組織は、大陸や北米の主要鐵鋼生産國の有する新式工場に比べて舊式であつて其企業の單位が小規模である、故に其數は多きに過てゐる上に、其産業の經營者には英國獨特の個人主義的の傳統が深く染みこんでゐて近代的生産組織に必要な生産の集中化、販賣の方に於て市場の割當乃至協定といふが如きことの實現を困難ならしめてゐる、企業單位の數の多いことは小規模の經營者の互の競争を激化せしめ其經營費の節減に必要な燃料と副産物の經濟的所置を行ふに困難を生ぜしめる、殊に最近に資本を募つて工場の改造を行

ふた所では、新式にした爲めに作業短縮を餘儀なくされ其結果却つて生産品の原價が甚敷高くなる一方、舊式の工場が安價に之と競争するといふことになるから經營は苦しくなる、バルフォア委員會の報告に據ると一九二五年平均熔鐵能力は英國約四萬一千噸、米國十三萬八千噸、獨逸九萬六千噸であるが、其後獨逸は外資を輸入し新式大規模に改造をしたから、現在右に示すよりも能力が増してゐる。鋼爐については英國の工場必しも劣つてゐるのではないといふが、夫でも六三二基の開爐に就て見るに五四〇基は六十五噸の能力で、百噸以上の能力のものは僅に三十二基に過ぎない狀態であると云はれ米國や獨逸の工場に比すると甚敷い遜色が認められる、又石炭の燃燒方法に科學的改良を加へて、石炭瓦斯其他の副産物を鐵鋼業に利用して生産費節減の途を開くが如きことは英國鐵鋼業の改良すべき點であるといはれる、同時に國內の鐵鋼業を炭坑に密接に連絡せしめ元費節約をはかること例令ばスコットランド、ミドルズボロ、シエフフィールド、サウスウエールズ、ランカシア等の五地方に炭坑業と鐵鋼業の經濟的統制と事業集中を行ふに於ては現在よりも低廉且有利に英國内産業の需要する鐵鋼材が供給出來た上に外國市場にも其地歩を維持することを得るであらうといふ主張もあるが從來の個々の會社の歴史から早速にかうした改革が出來ない程に、英國の斯業は舊くなつた、ことに近來の不況で、其製品は輸出が不振となると共に、國內では印度銹鐵を初め、大

陸鐵鋼品の輸入の増加があつて、國內生産業は内外から壓迫されてゐる、そこで鐵鋼業の關稅保護政策の必要が生じ一九三二年輸入稅法が出来て從價一割を課したが、僅か一割位では到底産業保護にならないといふので、一九三二年四月になつて焦眉の急として三個月を期として二三一 $\frac{1}{3}$ %の附加稅を加へ、三三三 $\frac{1}{3}$ %を課することになつた、ついで銑鐵も同様だといふので六月八日以後全じ附加稅を課するに至つた。當ては鐵工業を以て世界の潮を握つた英國にもかうした悲運が巡つてくることを考ふる時、我等は何等かの感を生ぜずには居れない。

○落下傘の絹地

英國航空省で採用する落下傘の材料の七割七分までは、同國內の生産であるが、二割三分は日本品である。本邦品が航空省の材料として用ひられたのは、一九二六年以後で、當初は日本品のみで小規模につくつたが、其後英國内の獎勵で英國の製造家の努力で殆ど日本品を驅逐したのである。但し日本製は度々之を折疊むも耐久力を失はず且傘が開く際に彈發性が十分に表はるゝ點は他國品に比して優良である。一九三一年英國でつくつた一千七百個の傘のうち三分一はすべて外國からの注文であつた、一個の落下傘に用ひらるゝ絹布の大きさは六十五平碼(二十四呎の直徑)よりは少しく大きく、材料の幅は三十六吋で、之から種々の大きな形狀に裁斷するので、その裂地九十六枚を繼ぎ合せるといふことである、英國航空省の採用せる落下傘は過去に於て約百人の

英國飛行家を救助し、世界的に六百名を助けた實績があがつてゐる、それで本邦製絹布を材料とした落下傘で開かなかつた故に飛行家が生命を失つた例は當て無いといはれてゐる、本邦絹布が本品材料として無比の素質を有することは航空専門家の齊しく認めてゐる所である、夫が今回英國製品を以て代用されるといふことは、英國に於て優秀の絹布が製作可能になつたことを證するものといはねばならない。この顯著な進出を示した製造家は Groot & Co. Ltd. of Great Yarmouth で、最近一萬三千碼の注文を引受けたといふ。

○フランスの綿紡織業

佛國の綿紡工業はアルサス州

復歸以來更に主要を加へ、現在では鍾數一〇・二五〇・〇〇〇織機二〇〇・一〇〇、捺染機二八七を算し其數に於て英、米ドイツについて世界第四位をしめ、職工數二十三萬人に達し綿織物年產量八十億法に上る、今其工業の中心を見るに北部ノール縣ではリユー、及ルーベール・ツールコアン兩市附近、ノルマンディ地方ではルーアン市及其附近、ヴオージニ地方ではエピナル及ベルフォルト兩市及其附近、アルサス地方ではミュールハウス市、中部地方ではチジ、及ローヌ兩市を中心とする地帯であるが、其所在が散在してゐてマルセイユ、ポルドー、ハーヴル等の大輪出商港からの距離が遠くて運賃が高くなる缺點がある。

且又これら工場の中にはルーベール・ツールコアン市等に於けるが如く近代設備を有する大工場少からざるも實際上是

個人又は親族の經營せる所謂家族工業の域を脱せざる工場多數を占め、鍾數三萬、織機數六百を越へざるもの大多數にして製品の統一がない、且又各地方に各地方特色があつて、織物の製出がちがう、各工場傳來の特製品をもつといふ有様であるから近代的に或一種の商品を多量に製産し難き事情がある、茲に於てか精巧特種品では他國品を凌駕するも生産品從て高く勞力の不足より來る勞銀の騰貴及戰爭中破壊されたる北部地方の復興に多額の費を投じたゝめに、他國品よりも割高になるといふ缺點がある、そこで保護關稅によつて之を保護したが近來は其生産が著しく増加したので、之を海外にはかすことに苦心してゐる、故にその植民地に對しては本國品を無稅とか外國品よりも格別の取扱をして消費せしむる政策を實行し、一九三一年には植民地輸出額は十億法に達し其製造高の一八%を輸出するに至つた、しかし之を他國の市場ではかやうには都合よく進展が出来ない現狀である。

○オランダの民間航空事業 一九一九年十月に創立

された蘭國王立航空會社(K.L.M.)は民間の各會社によつて資本が出され、設立後政府の補助を得たが、外國航路が蘭國領土を通過することは望まじきこととなりと考へ、アムステルダム及ロッテルダム飛行場の設備を優良にした、其結果今日ではアムステルダム市のスキッポール飛行場は卓越せる停機設備、氣象通報に關する第一流施設、及無線電信設備を有し明に國際航空主要中心地の一となつた、故に今日では蘭國機

は勿論、ドイツ、佛、自、瑞典、致須、丁抹、及スイスの諸國飛行機は定期飛行上絶へず飛來してゐる、K.L.M.の創立に於てはフォッカー飛行機製作場に對し、商業機の製作を委嘱し、その第二號型は一九二〇年に出來て之を實用し、ついで第三號型を作つた、この型は今日獨逸で大に用ひられた。更にF第七、第七a、第八、第九、第十二、第十八を注文しフォッカー工場と會社と密接に連絡して、その製造を指導した。オランダの取つた最初の航空路はアムステルダム倫敦線で一九二〇年五月來隔日に行つた、六月に入つて毎日飛行となつた、ついでアムステルダム、漢堡の航空をはじめ、一九二三年アムステルダム、巴里間に延長し、一九二六年にスカンデナビヤ線を開き、マルモに達した、丁度その處でオスロ及ストックホルム、コーペンブルク行の夜行列車に連絡するのでスカンデナビヤ急行航空の名實を兼ね現在倫敦マルモ巴里マルモ間の大複線急行路とまでに進展した、其他ドルトムンド線ブラッセル經由バーゼル線を開いたけれども成績不良でやめた、かくてオランダでは一九三一年航空旅客數二、

〇五一二、郵便八三、二〇六キロ、小包三九、三八一、貨物一、三二一、八七五を輸送するに至つた、猶此外の航空路としては、獨逸、スエーデン、フランス、致須、丁抹の諸會社と連絡して歐洲の各都市に旅客を送くことにしてゐる、外に東洋に對してアムステルダム、パタヴィア航路を開き一九三〇年九月から兩地方の隔週飛行が開始され一九三一年から

各週飛行となつた、最初はF七號で、兩地方八十五時間を要したが、F十二號で七十五時間に短縮した。目下F十八號製作中で、航空路の長さ一萬五千キロ米に達する。五月から十一月まで獨逸のハレ、ライプツヒ及ヴタペスト線により他の半期間はローマ、マルセイユ線を用ひる、この南方の線の方が遠いけれども、天候がよく著陸地がよいから一層定期性を帯びてゐる、片道平均十日で到達するとの事である。

この線の將來はバンコック、サイゴンへの佛國東洋航空路と完全な連絡がとれ、南部支那から馬來半島への交通に便益を與へ、將來は濠洲航路にも連絡する見込がある、従つて事實上歐洲と極東との最重要の飛行線路として發達するであらう

○アフガニスタンの事情

アフガニスタン市場に於

ては價格の割高なため英國品は極めて少く、綿織物及金物類はロシア及日本品が多く、ロシアからは油類、烟草、砂糖、穀物、日本からは燐寸、金物、香水類、石鹼が輸入され、英國品としては自動車(全部米國製)を除き或種の機械類で、英領インドから穀物、鹽、油類、茶が輸入される、輸出品の主なもの は羊毛、絨毯、取物でロシア及インドに向けられ果實類の輸出入も多い、又烟草穀物の如く輸入額に殆ど等しい額を輸出するがこれは品質と季節の相違から行はれる、多額に上るアフガニスタンの輸出超過額は寶石類を以て受取られ其額は一五〇、〇〇〇磅に達した、貿易路はケツタからカンダハールに至る線であるから、キーベル鐵道が國境まで延長しても格

別貿易に影響しない。

現在アフガニスタンに鐵道はない、曾て日本の資本と技術とを聘して鐵道を建設せんとする議があつたが、最後の協定にまで到達せずに終つた、豫定線はカブールとカンダハール及カンダハールとヘラットとを連絡する一線で、カブール、ヘラットの直接連絡は途中の山岳のために之を避けた、又他の一線はカブールよりキーベルに達するものであるがこれはカブール・クルト近くにある三百米以上の高山を越へねばならぬから技術上狹軌を用ひねばなるまい、印度政府經營のタールに達する線は狹軌二呎六吋であり、ロシアの軌道は五呎である、何れにしても隣國の軌道との連絡は當分考へてゐない丘陵の多いこの國では鐵道よりも普通道路及び空路の方が有利である、ロシアの飛行郵便は毎週カブールとテルメツとを連絡しモスコーに達する、又獨逸のユンケル會社はアフガニスタンと波斯との航空連絡に従事する特許を獲てゐる。

奥地に於て最も要求されてゐるのは碎石道路とまでは行かないまでも平均にされた道路である、之が出来れば從來の駱駝驢馬に代るに貨物自動車を用ひることが出来るからである、首都カブールからキーベル峠までは舗道が出来た、カンダハールまでの道路も良好である、尙山岳地方を過ぎトルキスタンのモザル・イ・シャリフに通ずる道路の地均工事は三ヶ年の豫定で開始され一九三二年に出来上る凡そこの道路が開通されたときナヂル・カーン王の努力も結果をしめすであらう。

工業としては不振であるが、ジャララバードの粗製糖工場
カプールやバタクシヤンの織布工場カンダハールのカシミヤ
工場がある、しかしこれが近代化すれば古への藝術的香氣の
喪失する恐がある。

ヘラット附近に石油があるといふが、これが經濟的價值が

○享保以後の地理關係出版書目 大坂(五)

書名

書工

板元

出願許可

大坂武鑑 小本 一册 丁數九十九丁

綿屋利兵衛(天満鳴尾町)

神崎屋利右衛門
(天満鳴尾町)

文化十二年六月

【附記】本書板行の出願に對し、此年七月「更に調査せよ」とて却下せらる。

丹後國細見大繪圖 一枚摺

齋藤甚左衛門
(但馬城崎郡湯島)

藤屋彌兵衛(高麗橋一丁目)

文化十三年正月
文化十三年三月廿七日

商人買物獨案内 横本 一册 墨付二百廿九丁

川崎屋吉郎兵衛
(天満五丁目)

播磨屋五兵衛(樺木町)

文政三年四月
文政三年五月四日

文政新版攝州大坂全圖 一册 一枚物

(故人)赤松善應
大岡藤三(徳井町)

播磨屋九兵衛(高麗橋一丁目)

文政三年十二月
文政四年五月十三日

松島圖誌 一册

櫻田周輔(奥州仙臺)

同人
藤屋彌兵衛(高麗橋一丁目)

文政四年五月
文政四年七月十四日

近江國大繪圖 再板發行申出

(故人)山下重政

河内屋儀助
(北久太郎町五丁目)

文政四年十二月二十日

【附記】右板元よりの申出でを、本屋行司にて開届け板行

日本往來 一册 繪圖八面増補出願

西川正造(京都)
蒲關牛(助右衛門町)

鹽屋季助(南久太郎町六丁目)

文政九年十月
文政九年十二月三日

萬船往來 一册

和泉屋彌四郎
(本町四丁目)

播磨屋清右衛門(南堀江五丁目)
土佐屋多郎兵衛(宮川町)

文政十年二月
文政十年六月二十八日

増補西國略打順禮記大全
此度二十八丁増補發行願出

和泉屋彌四郎
(本町四丁目)

藤屋善七(高麗橋一丁目)

文政十年五月
文政十年七月三日

大日本道中行程細見記 折本一枚摺
補刻再板願出

(故人)鳥飼洞齋

吉文字屋市兵衛(木挽中之丁)

文政十一年十二月
文政十二年三月十日

商人買物獨案内 後編 一冊

和泉屋俊藏(孫左衛門町)

播磨屋五郎兵衛(長濱町)

天保二年正月
天保二年七月朔
天保二年九月朔

安治川口築立地面圖 一枚摺

【附記】本書板行の出願は開届けられず

鹽屋喜助
(安堂寺町五丁目)

天保三年四月

大阪堀江魚市場之圖 一枚摺

新板發行申出

和泉屋彌四郎(博勞町)

鹽屋喜助
右板元よりの申出でを
本屋行司にて開届け板行

天保三年四月

文政 播州大坂全圖(安治川口新地増補)
新改 折本一枚摺 増補發行願出

大岡藤二(徳井町)

播磨屋九兵衛(高麗橋一丁目)

天保三年四月

【附記】本書板行の出願は開届けられず

大坂御藏屋敷所附 折本 一冊

和泉屋敬三(南草屋町)

播磨屋九兵衛(高麗橋一丁目)

天保四年二月
天保四年三年

日本興地路程全圖 折本 一冊
再板發行申出

藤屋彌兵衛

右板元よりの申出でを

本屋行司組にて開届け板行

天保四年六月

改 播州大坂圖(安治川口新田廻
正 船口印山増補) 折本一冊

播磨屋九兵衛(高麗橋一丁目)

播磨屋九兵衛(高麗橋一丁目)

天保四年九月

大坂御藏屋敷所附

和泉屋敬三(南草屋町)

播磨屋九兵衛(高麗橋一丁目)

天保五年二月

【附記】本書の板行は更に願ひ直しとなる

女洲浪花名所 一冊

蔀屋仙三(立賣堀一丁目)

河内屋徳兵衛(升屋町)

天保五年八月
天保五年十一月

大坂袖鑑 一冊

播磨屋喜六(本京橋町)

正本屋利兵衛(内本町二丁目)

天保五年十二月